

私学ぐんま

25号
2019



絵本の読み聞かせをする学生

目次

● 理事長ご挨拶……………	2	● 特色ある私学教育……………	3
群馬県私学振興会理事長	森本 純生	● 私学教育～私の思い～……………	4～5
● 知事ご挨拶……………	2	● でーた いま……………	6
群馬県知事	山本 一太	● 私の薦めるこの一冊……………	7
● TOPICS……………	2～3	● 表彰受賞者……………	8
私学振興講演会		● コラム……………	8
私学経営研究会		● 編集後記……………	8
海外研修			

理事長ご挨拶



公益財団法人群馬県私学振興会理事長 **森本純生**

群馬県私学振興会では、本年度も皆様のご理解とご協力により、退職手当資金等給付事業、各種融資事業のほか、8月には依法律事務所植村弁護士による働き方改革をテーマとした講演会の開催、また、本年度の新規事業であります私学経営研究会の立ち上げを行うとともに、10月には、再開後7回目となる海外研修を実施いたしました。

私学振興会では、今後とも、私立学校の振興、発展に寄与できるよう、役職員一同一丸となって取り組んで参りますので、引き続き皆様方のご支援ご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。

知事ご挨拶



群馬県知事 **山本一太**

公益財団法人群馬県私学振興会の皆様には本県私立学校教育の振興に御尽力を賜り、次世代を担う子どもたちの育成に取り組んでいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

近年、少子化・人口減少など私立学校を取り巻く環境は大きく変化しており、こうした状況の中、私立学校の皆様には、建学の精神に基づいた教育の実践に情熱をもって臨んでいただいておりますことに、深く敬意を表します。

私学振興会の皆様には、今後も私立学校教育の振興にお力添えをいただきますようお願い申し上げ、あいさつといたします。

TOPICS

私学振興講演会を開催しました



8月22日に、ホテルラシーネ新前橋において、今年度第1回の私学振興講演会を開催しました。内容は、弁護士法人依法律事務所の植村礼大弁護士による「私学における働き方改革法への対応」で、101名が参加しました。「時間外労働の上限規制」、「5日間の年次有給休暇の指定義務化」、「同一労働同一賃金」など、学校法人にとっても大きな影響のある働き方改革の全体像と学園での対応策について、わかりやすくお話いただきました。

私学経営研究会が発足しました



8月30日に、第1回の私学経営研究会を開催しました。私学経営研究会は、急激な時代の変化が進む中で、私立学校が直面する諸課題について、学種を超えて情報・意見交換をするために設置したものです。研究会では、会長（中島慎太郎中央総合学園理事長）、副会長を互選した後、学校法人八雲学園理事長・八雲学園中学高等学校長の近藤彰郎先生から「これからの私学教育－建学の精神をどう発展させるか－」と題してお話を伺うとともに、情報交換を行いました。

これからの職業教育

学校法人中央総合学園

理事長 中島 慎太郎



本学園グループは1942年（昭和17年）に創設者・有坂作太郎により前身となる前橋服装女学院を前橋市に設置したことにより始まりました。以来77年に渡り群馬の地に根付きながら、現在では専門学校8校、高等専修学校2校の運営をしております。これまで教育方針として「実学重点主義」を掲げ、様々な業界と共に有為な人材の輩出をしております。

現在、専門学校が多岐にわたる分野の職業教育を施しているのは、1990年代のバブル崩壊が大きな要因の一つになっています。バブル崩壊後の混沌とした時代に既存の職業像が大きく変わり、多くの新しい職業が生まれました。それにより新しい職業教育の必要性が高まり今のような専門学校群ができたと言われております。そういった歴史を見る中で専門学校の教育は「不易流行」の精神が大事であると感じます。不易＝普遍的な人間性、流行＝時代に則した職業観や知識、スキルであり、実学を行う上でどちらも欠くことのできない要素です。

そして、これからは技術革新により更に変化が大きく、早い時代に突入していきます。更にSociety5.0といった新たな社会を迎えると同時に少子高齢化や人口減少など、わが国としての課題に直面していきます。

「2011年度にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」(キャシー・デビットソン氏)

「これから10～20年後に日本の労働人口の49%がAIやロボット等で代替可能になる」(マイケル・A・オズボーン氏)

このような予測がある中で新たな社会に我々の役割は非常に大きいと認識しています。また、変化の大きな時代になればなるほど専門学校への時代の要請は大きなものになると感じています。本学園グループはこれからの新しい社会に向けて、今までの形に捉われない次世代の職業教育を展開し、様々な世代からのニーズに応えられるように今後も全力を尽くしてまいります。



2019年度 私学海外研修報告



団長 樹徳高等学校 副教頭 林 俊樹

この研修が実り多いものとなったこと、お世話いただいた私学振興会と各学校法人の皆様にご心よりお礼申し上げます。

カナダのバンクーバーで、大学・中高一貫校・専門学校を視察した後、バスで国境を越え、北米シアトルにあるボーイング社のエパレット工場を見学しました。日本の台風禍について、両国の方々から慰めや励ましの言葉をいただき、私たちの心は、国を越えた連帯感に満たされました。

エンrollment・マネジメント

新島学園短期大学 学長 岩田 雅明



エンrollment・マネジメントとは、入学前から卒業後まで、学生の状況に対応した総合的な支援を行うという考え方で、1970年代にアメリカで生まれたものである。2000年代後半から、日本でもこの考え方が、部分的なものも含めると多くの大学で導入され始めたが、その背景には18歳人口の減少による競争激化と、学生募集環境の悪化に起因する、学ぶ意欲の低い、目的意識の弱い入学者の増加、そしてそのことによる退学者の増加といったことがあった。

この考え方自体は素晴らしいものであるが、我が国においては残念ながら、なかなか成果が上がらないという状況がある。その理由として挙げられるのが、自部門の業務が優先されてしまい、部門間で連携・協働した総合的な支援とならないということである。言い換えるならば、組織が一体化しないということである。では一体化した組織とするためには、どのようなことが必要なのだろうか。強いリーダーシップ、組織目標の明確化といったことが指摘されるが、それが機能する素地として教職員の関係性を良いものにするという視点が、強く求められると思う。

学校は今まで恵まれた環境下にあったため、一体化しなくても問題なく活動できたのであるが、これからはそうはいかない。京セラという会社の強みは、社内での頻繁な飲み会にあるという。グーグルでもランチは同僚と食べることを勧めている。学校でも、外に対しての対策はもちろん必要であるが、厳しい外の環境だからこそ、内に目を向けることが大切であると思う。

私学
～私の

チャレンジ

東京農業大学第二高等学校 校長 大西 修

都立高校で38年も勤めた私が、高崎の私立高校に赴任することは、大変大きな挑戦と思っています。

若いころから生徒を育てることにチャレンジしてきました。その生徒が育ち、私も育てられて一人の生徒からクラスの生徒、学校とチャレンジする目標も大きくなっていきました。さらに、育てるから学校を運営、経営するという立場になり、より良く生きていく生徒を育成することに変わりがありませんが、より高い視点でより新しい時代を見据えていかなければならないと課題も大きなものとなりました。私にとって、さらなるチャレンジが必要です。



農大二高は、チャレンジを続けている学校です。近年では、コース制を導入して生徒が自分の得意な

力を伸ばせるようにしました。自学習室を職員室の前に、廊下には質問コーナーを設置し生徒の意欲に応えています。数年前からグローバル化を推進し、エンパワーメントプログラムや海外修学旅行(UCLA語学研修、Singapore & Malaysia)の実施、オプションではセブ島語学研修やオンライン英会話、台湾でのプログラミング研修等、種類も増えてきました。そして、華語講座は台湾の大学に進学するためのプログラムです。

東京農業大学の建学の祖である榎本武揚は「冒険は最良の師である」と記し、そのチャレンジする精神は脈々と受け継がれています。そして、次年度にはグローバルコースが新設されます。これは、私にとって大きな課題に向けて大きなチャレンジです。

これからも、より良く生きていくことのできる人間を育てるため挑戦をしていきたいと思えます。チャレンジ精神を忘れることなく。

人生100年
パートナー 野村證券株式会社

MIZUHO みずほ信託銀行

「面白い」は学びのはじまり

田部井幼稚園 園長 小杉 あかね

私は園長になるまで、クラス担任として保育に携わってきました。その中でいつも心に引っかかっていたのは、些細なことも確認し、自分で考えることを苦手とする子ども達のことでした。

そこで、園長になったことを機に、子ども達をもっと主体的に色々なことに取り組めるよう今までの保育を見直すことにしました。

まず、私たち保育者が、先に正解を決め、答えの導き方まで示すのではなく、子どもたち一人ひとりが自分のやり方や答えを見付けられるようにしました。そうすることで、子ども達は失敗から学び、どうすれば良いか考え、工夫できるようになっていました。

少しずつ手応えを感じられるようになってきましたが、戸外遊びは以前と変わらず、あまり発展が見られませんでした。その日の遊びはその日で終わり、遊び込む姿がみられないのは、環境設定に問題があると感じ、今まで子ども達が使いたかった時にだけ出していた雨樋や古タイヤなどを、子ども

も達が使いやすい所に配置し、いつでも使えるようにしました。するとそれに気付いた子ども達は興味を持ち、雨樋をつなげ水路作りが始まりました。「面白いね。」と夢中になって毎日のように遊びが繰り返されました。どうしたら水がうまく流れるのか、意見を出し合い実際にやってみる。失敗してはまた試行錯誤の繰り返しでしたが、子ども達から「やった！」と声が聞こえた時、これが学びだなと実感できた出来事でした。



子ども達が面白いと感じ夢中になって遊ぶ幼稚園には遊びがいっぱいあります。これからも子ども達が心から楽しめる幼稚園でありたいと思います。



教育への思い

学校法人藤仁館学園 専門学校高崎福祉医療カレッジ 理事長 佐藤 律夫

38年前(昭和56年)家具メーカーの経理マンをしていた私は、ある事と引き換えに高崎の家と大好きな車と大切な仕事を捨てることを神様に約束してしまいました。就職活動の末に東京の簿記学校講師になりました。30才で職に在りつけ、生後8か月の娘を抱えて家族3人が生き延びられたのは「資格」があったからだと感謝しました。この時の体験が私の「教育の原点」です。以来38年間資格教育・専門学校教育に携わってきました。

私に転期が訪れたのは、教壇に立ち22年経った平成15年早春のことです。私の「教育の原点」に立ち返り目指すべき教育の方向性を確認し自分の「思いの教育」を整理しました。それを一口で言えば「私が入学したい学校」であり「自分の娘を入学させたい学校」です。

「思いの教育」の基本理念は「卒業生の10年・20年先を見据えたりカレント教育の確立」です。設置学科を考えるに当たっては「人にとって大切なこと、社会にとって必要なことをしっかり学べる」内容で「仕事や転職に直接役立つ」学科です。

教育の前提条件としては「学生は等しく、全員がやる気に満ち、国家試験に合格する以上の能力を持っている」が大前提です。

ただし入学者が今日に至るまで諸々の要因で学力に差が出てしまっている→ここに工夫の余地あり⇒詰め込む・教え込むではなく「持っている能力を引き出す教育」を実践する。これが私の教育に対する思いです。

「私の思い教育」を実現する決意で東京の専門学校を退職し、福祉系の講習会・国家試験対策講座を中心とした会社を設立し「5年間で専門学校を作ろう」を合言葉に人材と資金?とノウハウと福祉業界へのコネ作りにも励み、おかげ様で平成20年4月に専門学校高崎福祉医療カレッジを開校することが出来ました。

この間(今でも)多くの方からご理解・ご指導いただいたことに深く感謝を申し上げます。この感謝の気持ちを忘れずご恩に報いるためにも、改めて「思いの教育」を実現する決意です。



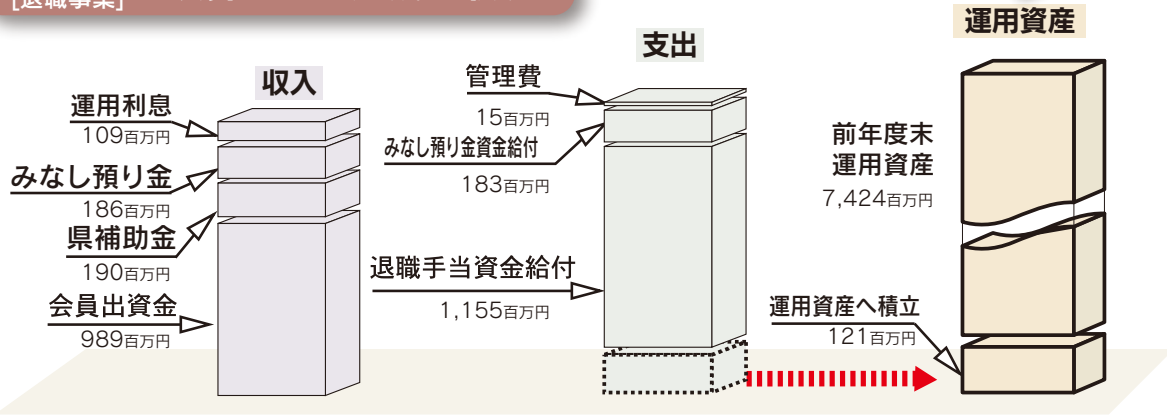
いっしょに、明日のこと。
Share the Future

SMBC日興証券

MUFG 三菱UFJモルガン・スタンレー証券

平成30年度
[退職事業]

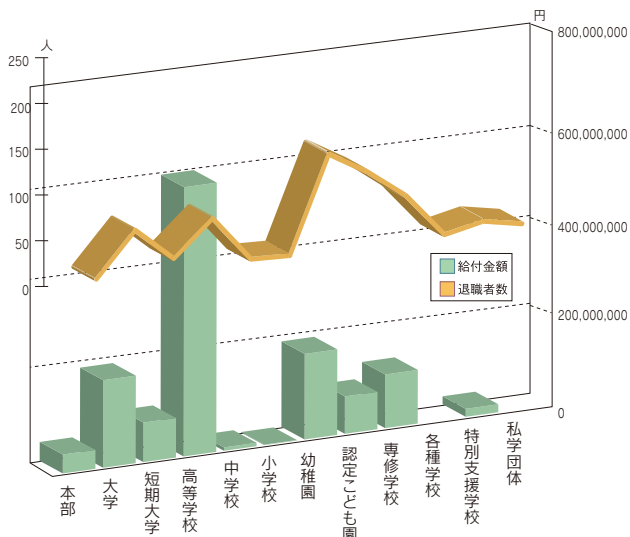
決算と基金造成の状況



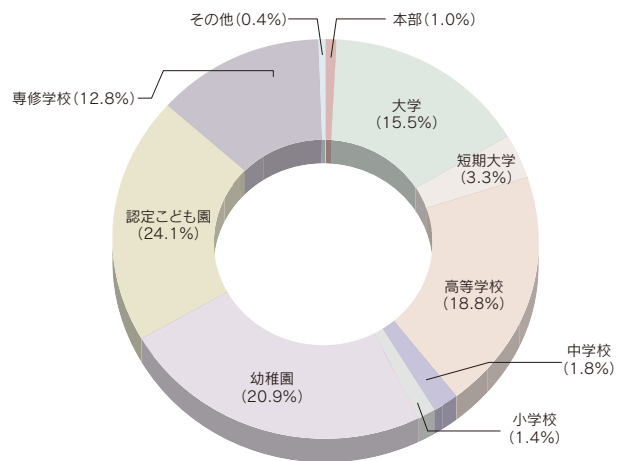
収入 1,474百万円 - 支出 1,353百万円 = 運用資産へ積立 121百万円
 出資金・補助金・利息等 退職手当・管理費等 将来の給付に備え基金造成
 年度末運用資産額 7,545百万円

退職手当資金給付制度は、毎月の会員（学校）から納入された出資金と毎年交付される県の補助金を原資に、教職員が退職したときに支給される退職手当の資金を、会員（学校）に給付する制度です。

学種別退職者数と退職金資金給付額



学種別登録教職員数

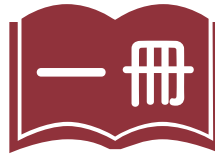


平成30年度 学種別会員学校教職員数・退職手当資金給付状況

学 種	学校数(本部除く)	教職員数	退職者	給付金額	退職者一人当り金額
本 部	(11)	38	5	38,283,288	7,656,658
大 学	7	564	54	177,126,492	3,280,120
短期大学 ※	6	119	16	79,953,321	4,997,083
高等学校 ※	13	685	55	544,634,832	9,902,451
中 学 校	5	67	3	6,823,952	2,274,651
小 学 校	2	51	1	1,070,100	1,070,100
幼 稚 園	64	761	109	172,982,463	1,586,995
認定こども園	49	879	83	75,573,989	910,530
専 修 学 校	45	467	50	108,488,470	2,169,769
各 種 学 校	3	0	0	0	0
特別支援学校	1	10	9	16,042,365	1,782,485
私 学 団 体	4	5	0	0	0
総 計	199	3,646	385	1,220,979,272	3,171,375

※ 弔慰金を含む。

私の薦めるこの



本を読むと脳のアンチエイジング効果があるそうです！
どうぞお役立てくださいませ。

平常心のレッスン

／小池龍之介(著)

朝日新書



高崎健康福祉大学 健康福祉学部健康栄養学科
教授 **村松 芳多子**



ストレスの多い現代社会の中で生活している私たちは、誰もがいろいろな問題にぶつかり、悩み、苦しんだりしています。あるがままの自分自身を受け入れ、失敗や困難に動じない平常心を日々の習慣の中で身につけるための秘訣など、「心」について深く考えるきっかけを与えてくれる1冊です。

〈パワーポーズ〉が最高の自分を創る

／エイミー・カディ(著)・石垣賀子(訳)

早川書房



高崎商科大学附属高等学校
校長 **高橋 洋一**



「幸せだから歌うのではない。歌うから幸せなのだ。」という言葉聞いたことがありますか。自信のないときでも自信に溢れる「パワーポーズ」を取り続けることで、自信の感覚を高め、成功できる見込みも変わるそうです。
自己肯定感を、自然に育んでくれる必読書です。

おおきくなるっていうことは

／中川ひろたか(作)・村上康成(絵)

童心社



樹徳幼稚園
園長 **瀬谷 茂**



幼稚園時代の成長が、ユーモアいっぱい描かれ、自分ができるようになったことを理解し、一層楽しさが増します。本園では、発表会において毎年年長さんが朗読発表し、成長を自覚して小学校へと進みます。子どもたちにとって楽しく価値ある1冊です。

センス・オブ・ワンダー

／レイチェル・カーソン(著)・上遠恵子(訳)

新潮社



学校法人木村学園 前橋文化服装専門学校
理事長 **平塚 園枝**



『沈黙の春』の筆者が私たちに残してくれた最後のメッセージです。簡潔な文章と織り込まれた写真から、センス・オブ・ワンダー＝不思議さに驚嘆する感性＝が蘇ります。読後、自然の中で深呼吸したくなる一冊です。

表彰受賞者 受賞おめでとうございます

県功労者表彰

権頭 俊澄 (恵光学園 理事長)

永年勤続者顕彰

ブッシュ恵利子 (共愛学園高等学校 教諭)

永井 紀子 (共愛学園高等学校 事務長補佐)

大谷 優子 (共愛学園高等学校 事務室係長)

日川 千恵 (共愛学園中学校 教諭)

大久保知美 (前橋育英高等学校 教諭)

木村 守 (前橋育英高等学校 教諭)

清水 葉子 (前橋育英高等学校 事務主任)

田村 彰康 (高崎商科大学附属高等学校 教諭)

山田 智恵 (高崎商科大学附属高等学校 教諭)

長谷川 健 (高崎商科大学附属高等学校 教諭)

井田 景子 (高崎健康福祉大学高崎高等学校 教諭)

木村 幸子 (桐生第一高等学校 教諭)

星野 匡樹 (樹徳高等学校 教務部長)

佐伯雄二郎 (樹徳高等学校 教諭)

轟 公明 (樹徳高等学校 職員)

近藤 一郎 (新島学園中学校・高等学校 講師)

田村 毅 (新島学園中学校・高等学校 講師)

山田 満 (新島学園中学校・高等学校 教諭)

宮 希望 (新島学園中学校・高等学校 教諭)

中島ふみ代 (新島学園中学校・高等学校 教諭)

成田 仁 (明和県央高等学校 教諭)

ショート
コラム

「真のやさしさ とは」



私は、真のやさしさとは、強い意思と勇気が必要な、もっと奥深い、ある意味で無骨な、重厚なものであると思っています。以前、新聞にコラムとして載っていた話があります。満員電車の中で母親に抱かれている赤ちゃんが泣き出しました。周りの厳しい視線が母親に集まります。その時、年配の女性が母親に話しかけました。「眠いのかしらねえ」。母親が、「うるさくてごめんなさい」と答えました。するとその女性は「何言っているの、一番大変なのはあなたじゃないの。お母さんが一番つらいのよね。」この一言で車内の空気がやわらかくなった。と、コラムは結んでいます。世の中、人と人との間がサッパリとしすぎてきたせいか、なかなか心が通じ合えないもどかしさを感じている気がします。このような時代だからこそ、お互いを思いやるやさしさを忘れないようにしたいものです。

(高山 幸索)

編集 後記

今年は、台風の当たり年。台風15号19号と立て続けに関東地方を通過し甚大な被害が出ました。群馬県は比較的災害が少なく安全だと云われていましたが、たまたま運が良かっただけで、もはやそんな群馬の安全神話は通用しない時代になってしまいました。温暖化が原因なのか台風も大型化しつつあるとか…。大切なお子さん達をお預かりしている我々学校は、今後の安全対策について、今まで以上に真剣に向き合わなければいけないと痛感しました。

鈴木良幸

公益財団法人 群馬県私学振興会

理事長 森本純生

広報委員会

鈴木利定・鈴木良幸・高山幸索・蜂須賀和夫

〒371-0854

前橋市大渡町1丁目10番7号

群馬県公社総合ビル6階 私学センター内

TEL 027(255)6851 (振興事業)

027(280)6207 (退職事業)

FAX 027(280)6208

URL

<http://www.shigaku-gunma.or.jp>



令和元年12月発行